

- 1 FDシンポジウム開催
- 2 授業例の発表
- 3 FDワークショップ開催
- 4 新任教員研修・教員交流会開催
- 5 2019年度甲南大学FD委員会活動報告

発行:甲南大学FD委員会 2020年3月

1 FDシンポジウム開催

2019年6月19日(水)

～経済学部ベストレクチャー 事例発表～



2019年6月19日(水) 18:20～19:30に523講義室にて、FDシンポジウムが開催された。以下が本シンポジウムについての参加報告である。

経済学部の講義を受講生の人数によってAグループ(20人未満)、Bグループ(20～59人)、Cグループ(60～99人)、Dグループ(100人以上)に分け、それぞれのグループ内で2018年度授業改善アンケートの項目(Q3:予習・復習、Q7:意欲・熱意、Q12:知識・能力、Q13:満足度、Q15:私語)において高得点であった講義の教員をベストレクチャーとして選出し、その事例が報告された。各ベストレクチャーは、Aグループ「プロジェクトゼミ」(寺尾建/柘植隆宏)、Bグループ「上級ミクロ経済学Ⅰ」(市野泰和)、Cグループ「入門ミクロ経済学」(市野泰和)、Dグループ「現代アジア経済Ⅱ」(金俊行)であった。

初めにAグループの「プロジェクトゼミ」の寺尾先生より事例の発表があった。実際の経営者(株式会社ファミリア代表取締役社長岡崎忠彦氏)から課題が出され、それについて探求・解決していく実践現場と密接に関わったPBL型の授業形式であった。少人数のグループ学習形式で、それぞれがチームとして以下の流れに沿って課題を探求・解決していく。

- ①テーマの設定 ②課題の明確化 ③仮説の設定 ④先行研究の概観 ⑤情報収集・分析 ⑥論点整理 ⑦討議・考察 ⑧成果物発表

最後に成果物を発表するという具体的な課題が明確化されていることで、学生同士の活発な意見交換がなされるシーンも動画で見ることが出来た。また、教員は成果物を完成させるためのファシリテーターとしての役割を果たすことに

徹し、学生自身が自分自身のスキルがどのレベルなのかをセルフチェックシートにより確認することが出来るよう工夫されている。また、講義において注意している3点は、「到達目標を明示すること」「リードするのではなくフォローすること」「成果物の質を高めること」であることが述べられた。本講義は、学生主体で講義に参加し、最終的に学



生自身で成果物を完成させるため、より実践的で記憶に残る深い学びが得られるのではないかと考える。

次にBグループ「上級ミクロ経済学Ⅰ」及びCグループ「入門ミクロ経済学」について市野先生より事例発表があった。ポイントとしては、「自らの学修を自ら認識させること」であり、そのための様々な取り組み事例が紹介された。ここでは、特に「入門ミクロ経済学」の事例を中心に説明があった。本講義は、1限であるが、同じ曜日の3限もしくは4限に20名規模の演習クラスが開講されており、1限目の講義での振り返りや疑問点を演習クラスで解決するというように、講義と演習がセットで行われている。また、講義は全てシラバスから外れることなく進行し、毎回の講義の前には指定されたテキストのページを予習するよう指示されている。そして、講義中にその内容を踏まえた小テストが行われ、予習した学生にはメリットがあるように工夫されている。講義形式ではあるが、学生が積極的に講義に参加しなければならない仕掛けが沢山ある。また、初回に与えた課題を最終講義時にも与え、最初の論文と15回講義後の論文を比較することで、学生自身がその学習成果を認識できるようになっている。市野先生は「取り組みが上手くいかない理由は、学生に意図が伝わっていないことが多いからであり、教員はなぜこのようなことをすべきかを学生にしっかりと伝えるべきである。」と述べられた。



最後に「現代アジア経済Ⅱ」の金先生より事例発表があった。講義の内容は、今まさに問題となっている事柄について、専門的な観点から深く掘り下げて解説する方法がとられており、学生達にとっても社会や経済を知る上で大変興味深いものではないかと考える。帰納法的教授法がとられており、時事問題を明確に理解できる講義内容である。また、過去の授業改善アンケートで、「早口で分かりにくい」「板書が読みにくい」といった点を払拭するために、講義時に重要点を教員が音読みし、学生が黙読する形式に変えられたとのことであった。さらに、金先生は、自身で経済問題に関するブログを更新されており、その内容についても講義の中で解説されていた。その結果、卒業後もブログを読む学生が多いそうで、生涯の学びとしてのきっかけとツールが与えられたのではないかと感じた。また、毎回リアクションペーパーを提出させ、必ず考えて文章を書かせることを義務付けられている。「覚えたことは忘れるが、考えたことは将来に繋がる」という金先生の言葉が印象的であった。

今回、FD委員として経済学部ベストレクチャー事例発表に参加したが、それぞれの先生方が「何を伝えたいか」「学生に何を身に付けさせたいか」という共通の想いが伝わる事例だった。そして、何より講義をされている先生方が一番楽しそうだった。私も講義をしていて、自分自身で「面白い!」と思えるような講義が出来るように今回のシンポジウムを参考にしたいと思った。

報告者: スポーツ・健康科学教育研究センター 曾我部晋哉

2 授業例の発表

2019年9月4日(水)

経済学部 1 年次科目「数学入門」での『学び合い』の実践

発表者：立命館大学経済学部 市野泰和教授

今回の発表は、本学における『学び合い』の実践例である。

『学び合い』とは、2000年代に上越教育大学の西川純教授によって提唱された授業方法である。小学校での授業を対象に考え出された方法だが、今では、中学校や高校でも『学び合い』の授業を行う教員がいる。

『学び合い』は、教員が生徒・学生全員に向けて講義をする、いわゆる「一斉授業」と対比される。典型的な『学び合い』の授業において、教員は、授業の開始時に、その日の課題、ゴール、および、ゴールに到達したかどうかを測る方法を子どもたちに提示するだけで、全員に向けて講義をしない。子どもたちは、協同して、相談したりお互いに教えたり教えてもらったりしつつ、各自のペースで課題に取り組むことで授業内容を学ぶ。その間、教員は、クラス全体を見渡ししながら、「△△については〇〇さんに聞いてみたら?」「□□さんはほかのみんなとは違う考え方をしているみたいだよ」といった発言をして子どもたち同士をつなげたり、子どもたちに求められれば個別にヒントを出したり考え方や解き方を教えたりする。そして、最後に、全員がゴールに到達したかどうかを確認して授業は終わる。

クラスの子も達は、塾に行っているかどうかなどの違いにより、知識の有無や理解度に差がある。そのような状況を前提に、一律の内容で授業を行うのではなく、子ども同士に教え合わせるのである。教えてもらう側にも利益があるし、教える側にも教えることで理解が深まるという利点がある。

グループワークと異なり、『学び合い』においては、1人で勉強したい生徒は1人で作業を進めて良い。それぞれが、時に他の子どもの力を借りながら、自分のペースで学習を進めていくことができるのである。

今回『学び合い』を実践したのは、経済学部1年次科目「数学入門」で、出席者数は(最終的に)60名程度である。授業はいわゆる「反転授業」の形式をとり、次のような進め方をした。

- ・1週間前に、予習箇所を指定し、予習動画、予習問題を教員が掲示する。
- ・授業開始前に、予習問題の解答を学生が提出する(成績の20%)。
- ・開始後約5分間、教員の語りがあり、その後の5分間で学生同士での予習問題の答え合わせをする。
- ・それから約1時間、受講生が演習問題を解く。この時、学生同士自由に教え合うことが期待されている。
- ・授業最後の15分間で、確認テストを実施する(成績の20%)。

以上のように進められた授業は、従来小学校等で実践され

てきた『学び合い』との共通点をもちつつ、相違点もある。違いの第1は、今回の「数学入門」では予習をさせていることである。クラスの中に塾などで習って既に学習内容について知っている子どもがいる小学校等と違い、大学の場合は学習内容を既に知っている学生は少ないためである。

第2に、教員の行動について。小学校などで実践されている『学び合い』では、先生は教えることはしない。わかっている子どもが誰かを教え、その子どもに教えてもらうように誘導する。一方、「数学入門」では、教員と2名のファシリテーター(4年次学生)が教室を巡回し、ヒントを出したり、質問に答えたり、問題の解き方を教えたりする。やはり、大学の学習内容を理解している学生が少ないからである。

第3の違いは、小学校などは毎日同じクラスメイトに会うのに対し、大学の授業では受講生が週に1度、当該授業の時にしか会わないという点である。大学の講義形式の授業の場合、週に何度も会わない学生同士が教えたり教えを請うたりすることが求められるが、それは難しかったようである。

実践の結果について見ると、学期の後半には、受講生も大分授業の形式になじみ、演習問題を解く時間には、既に問題を解いた数名の学生が他の学生を教えるということが、何度か起こるようになった。授業アンケートの結果を見ると、受講生の予習復習は増えたが、授業の難易度には不満が多かった。反転授業の趣旨が受講生に十分伝わっていなかったようで、講義をして欲しいという希望が示された。小学校などは授業時間が45分や50分なので、教員が教壇から教える時間はほとんどないが、授業時間が90分の大学なら、講義の時間はとれると思われる。

反転授業と『学び合い』の組み合わせの効果について、この組み合わせは教員・学生の両方に一定の効果が期待できる。教員側は、授業で学生が取り組む課題を作ることで、到達目標到達基準を考え、授業内容の学生からの見え方を意識することになる。そして、自分が何をどう教えているのかというメタ認知が生じ、学生は今どこまでどう学んでいるのかについて、より意識的に考える効果が期待される。

学生側は、授業に協同して課題に取り組む過程で、何がどうわからないか等を人に話すことになる。そして、自分が何をどう学んでいるのかというメタ認知が生じる。教員は何をどう教えようとしているのか、より意識的に考える効果が期待される。

今回発表いただいた実践例は、非常に興味深いもので、ご報告後に多くの質問が出て、予定されていた時間一杯まで質疑応答が続いた。

報告者：法科大学院 早瀬 勝明

3 FDワークショップ開催

2020年2月18日(火)

テーマ：主体的な学びを促す授業デザインとクラスサイズや分野にあった
アクティブ・ラーニングの提案

講師：共通教育センター 小西幸男

2月18日に「主体的な学びを促す授業デザインとクラスサイズや分野にあったアクティブ・ラーニングの提案」を開催しました。大学から「能動的学修(アクティブ・ラーニング)の教員研修リーダー講座」への参加の機会を得て、昨年8月から3ヶ月間に渡って研修を受講し、修了書を頂きました。研修ではアクティブ・ラーニングの手法を始め、様々な講義と実際に体験していく講義を午前9時半から午後5時半まで毎回盛りだくさんな研修内容を受講しました。「基礎」「実践応用」「総合演習」と3回の集合研修では毎回の課題・宿題があり、実際に学んだことを新学期早々の授業内で実践し、それについてレポート作成をするというなかなかハードなものでした。昼食は会場内で、ほんの一息ついてまた午後のワークを行うというタフな内容でしたが、この研修での大きな収穫は、多くの他大学の教員の方々と各大学での試行錯誤やアクティブ・ラーニングの課題について情報交換をできたことでした。

近年では、アクティブ・ラーニングの手法に関する書籍や様々なメディアにおいて実践へのアイデアの情報が溢れています。他大学での成功例も紹介されています。しかし、教員に望まれている大学で行うべきアクティブ・ラーニングとは、成功例の模倣をする授業ではなく、それぞれの大学の学生の資質や個性、授業科目の内容やクラスサイズといった要素を考慮したそれぞれの教育効果を上げるための手法を実施することが肝要であると認識しました。

今回は研修成果の報告と本学で取り組むべきアクティブ・ラーニングはどのようなものが良いのかという命題でワークショップを開催しました。参加された先生方は、専任教員だけでなく、非常勤の先生方も来られ、熱心で活発な雰囲気の中、ミニレクチャー「大学教育における質的転換」の後、その中の一つの観点であるアクティブ・ラーニングにどのように取り組んでいくかの、「授業デザインの方法にはどのようなものがあるのか」について、ワーク

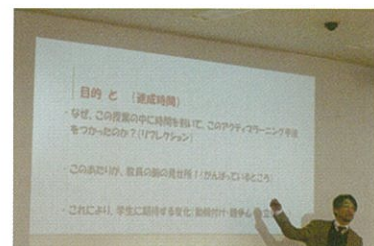
ショップを行いました。4人1組のグループに分かれ、経験値の高い教員も、経験値の少ない教員も新しい観点、また経験からそれぞれが意見を自由に出し合うことができました。本学の学生とは

どのような学生なのか、授業を活性化させる工夫とはどんなものかなどをテーマに、ワールドカフェの手法に則って、授業を能動的に転換していくための新しいアイデアについて話合うことで、本学らしいアクティブ・ラーニングのあり方を模索する良いワークショップになったと思います。

教員同士のコミュニケーション、授業の工夫の情報交換から、より教学の現場にあった学修が考えられました。アクティブ・ラーニングを導入することが必須課題のように思われ、是が非でもなんらかの形で無理に取り入れなければならないのかという現場での疑問や、どのようにするのが良いかを個人で模索しなければならないのかといった不安の声もあるのが現状であり、そのことが研修でも今回のワークショップでも課題であると認識しました。

最近の中央教育審議会や文部科学省の指針や要請では、従来の講義形式の授業が否定されているように感じてしまうほどのプレッシャーがないでもないですが、大学での教育に必要な知識の伝授の方法がすべてアクティブ・ラーニングの手法で行えるわけではないので、本来のアクティブ・ラーニングは、流行の手法のみに翻弄されない教育の方針を各教員が持つことが大事です。その上で、効果的な授業を行うために教学の活性化の素材としてアクティブ・ラーニングを情報交換しながら展開できるFD活動であればと思います。

小西幸男



4 新任教員研修・教員交流会開催

2019年9月18日(水)

講師：共通教育センター 千葉美保子

2019年9月18日(水)に、甲南大学FD委員会主催の新任教員研修会・教員交流会を開催しました。

本研修会・交流会は、着任5年以内の新任教員を対象に学部を横断した交流を目的として、今回初めて実施されました。対象となる新任教員のほか、ファシリテーターとして先輩教員にも参加



いただき、教職員あわせて15名の参加がありました。

内容は2部構成とし、前半では新任教員研修会として、学内の学習環境や学習支援制度であるラー

ニングアシスタント制度、2019年9月にリニューアルした学内LMS(MyKONAN)の機能を紹介しました。さらに、アクティブ・ラーニングの技法であり、大規模授業でも導入事例の多いピア・インストラクションを体験いただきました。

後半は教員交流会として、模造紙を用いたグループワークを実施し、新任教員・先輩教員混合のグループに分かれ、授業での悩みや教育・研究環境をテーマに意見交換を行いました。特に大規模授業を担当する教員から、普段の授業での工夫や、学習環境に関する意見が出され、最後には全体での共有・ディスカッションを行いました。

今後も継続的かつ横断的な交流の場を設けて行きたいと考えております。

千葉美保子

5 2019年度甲南大学FD委員会活動報告

2019年度甲南大学FD委員会の主な活動：○全学共通授業改善アンケートの実施及び集計・分析○新任教職員ガイダンス(4/2)○経済学部共催FDシンポジウム「経済学部ベストレクチャー事例発表」(6/19)○授業例の発表「学び合いの実践」(9/4)○データサイエンスに関するFDワークショップ(9/17)○新任教員研修・交流会(9/18)○六大学合同FD・SD研修会(10/4)○FDワークショップ「主体的な学びを促す授業デザインとクラスサイズや分野におけるアクティブ・ラーニングの提案」(2/18)○FD委員会開催：学部・センター・研究科におけるFD活動等について○FDニュース発行、等

《各学部・センター・研究科からの主なFD活動報告 2019年4月～12月》

〈文学部・研究科〉

「文学部FDプログラム」授業公開及び意見交換会(6/25)。「文学部FDプログラム」ティーチング・ポートフォリオ説明会(9/25)。今後のFD活動方針について文学部教育検討委員会(10/9)。「文学部FDプログラム」授業公開及び意見交換会(11/14)。授業公開について文学部教育検討委員会(11/20)。「文学部FDプログラム」授業公開報告会(11/27)。等

〈理工学部〉

4月～6月生物学科授業参観。物理学科授業参観(6/26)。授業改善のための物理学科FD会議(7/17)。授業改善アンケートに基づく開講科目検討会(8/18)。2018年度授業改善アンケート結果に基づく学生代表者との懇談(9/3)。授業参観の進め方について検討(9/3)。教員相互の授業参観及び意見交換(9/26、10/17)。ティーチング・ポートフォリオ作成について意見交換(10/28)。後期授業参観及びフィードバック(12/11)。授業参観に基づく授業改善のための討論会(12/18)。等

〈自然科学研究科〉

高圧ガス等の安全講習会(4/4、5、18)。放射線業務従事者講習会(5/10)。「サイバー犯罪」「サイバー攻撃」安全講習(6/10)。大学院生に対する講義方法等について知能情報学専攻FD委員会(7/23)。授業改善アンケートに基づく開講科目の検討(8/18)。2019年度前期授業改善アンケート集計結果について知能情報学専攻FD委員会(9/3)。2019年度前期授業改善アンケート集計結果に関する意見交換。レーザーの安全対策について(11/8)。等

〈経済学部・経済学専攻〉

2018年度授業改善アンケート集計結果に基づく、FDシンポジウム「経済学部ベストレクチャー」開催(6/19)。経済学部拡大FD委員会(ティーチング・ポートフォリオの活用等)について意見交換(10/23)。教員相互の授業参観実施(17名の教員が他の教員の授業参観)(11/11～12/6)。等

〈法学部〉

法学部教育実践委員会中心に法学部教育の検討(アドバンストゼミ開設の方向で議論)。法学部独自の授業アンケート実施(5/27～6/7)。「刑法総論Ⅱ」授業参観実施及び7/23検討会(7/8)。法学部FD活動におけるティーチング・ポートフォリオの活用についての意見交換会(10/8)。2019年度後期法学部授業改善アンケート結果に基づいた「刑事訴訟法Ⅱ」の授業参観(12/11)。等

〈経営学部・経営学専攻〉

経営学部2018年度成績優秀者対象授業アンケート実施(6/4)。1年生対象経営学部簿記授業アンケート実施(6/25)。経営学部全学年対象授業アンケート作成及び実施(7月)。BPコースインターンシッププログラム意見交換会・アドバイザーボード部会(8/6)。「経営科学」授業参観(11/4)。「経営学総論」授業公開(11/20、27)。「マーケティングサイエンス特殊講義」参観(12/8)。等

〈マネジメント創造学部〉

新カリキュラム案についてFDランチミーティング(7/24)。「マネジメント創造学部FD研修会」教育改善に活用するための簡易版ポートフォリオについて意見交換(10/16)。研究プロジェクト授業における目的や意義について認識の共有及び方策の検討。等

〈知能情報学部〉

知能情報学部FD委員会(成績にかかわる特別指導の報告等)(5/14)。知能情報学部FD委員会(ティーチング・ポートフォリオの活用について：授業改善に向けて活用していくことを検討)(10/29)。等

〈フロンティアサイエンス学部・研究科〉

学部・研究科ベストレクチャー選定。教員による授業参観(T-Learning)(5/15)。学部・研究科合同授業改善検討会(ベストレクチャー研修会)(7/29)。2018年度授業改善アンケート分析結果に基づく学部・研究科、先端生命工学研究所専任教員による授業改善検討会等(9/30)。教育改善に活用するためのティーチング・ポートフォリオに関する意見交換会(10/28)。学部ベストレクチャーの授業参観及びレポート結果をフィードバック(10/30)。等

〈国際言語文化センター〉

外国語教育担当者会議(4月、5月)。授業公開(5/7～6/28)。言語教授法・カリキュラム開発研究会(スマホ・AIの活用による外国語授業について)(7/6)。ドイツ語教員対象研修会(6/19、21、24)。授業改善アンケート結果に基づく授業改善検討会(7/24)。ティーチング・ポートフォリオを活用した授業改善検討会(10/9)。授業公開(10/1～11/29)。言語教授法・カリキュラム開発研究会(教授法の研究に役立つ取組み等について)(11/16)。授業改善のための外国語教育担当者会議(9月、10月、11月)。等

〈教職教育センター〉

2018年度後期授業改善アンケートに関する意見交換会(6/3)。ティーチング・ポートフォリオと授業の進め方及び、2019年度前期授業改善アンケートに関する意見交換会(10/7)。等

〈スポーツ・健康科学教育研究センター〉

「健康リテラシーⅣ、Ⅴ」の模擬講義実施及び意見交換(7/29)。ゴルフ実習のための指導講習会(8/22、23)。ティーチング・ポートフォリオ作成についての意見交換会(10/21)。等

〈公認心理師養成センター〉

公認心理師養成センター運営委員会(授業公開科目の検討等)(5/28)。授業公開科目の検討及び2018年度授業改善アンケート分析結果について意見交換(9/24)。京都コムニタス(民間予備校)による公認心理師の現状分析報告(11/20)。等

〈共通教育センター〉

カリキュラム委員会(4月、5月、6月、7月)。共通教育センターFD研修(4/11、6/19)。「実践的FDプログラム」オンデマンド講義の使用方法和活用について協議(5/20)。共通基礎演習における授業改善アンケート結果等について議論(9/17)。入学予定者対象のグループワークの試行(9/24)。ティーチング・ポートフォリオの活用について意見交換(10/8)。等

〈法科大学院〉

前期授業アンケート実施(5/7～15、6/24～29)。前期授業参観及び参観報告書作成(6/10～22)。拡大FD委員会(授業アンケート結果及び授業参観報告書等について)(7/22)。院生との個人面談実施(9/18)。拡大FD委員会(前期授業アンケートのコメント及び後期授業参観、ティーチング・ポートフォリオについて)(10/28)。後期授業アンケート実施(10/30～1/8)。後期授業参観及び報告書作成(11/20～12/3)。等

さらに詳しい情報・報告はホームページへ！

大学トップ ▶ センター・研究所・図書館 ▶ FD—甲南大学のFDへの取り組み—

問い合わせ先

FD委員会ではFD活動やFDニュースについてご意見・ご要望を受け付けています。

教育学習支援センター事務室 TEL078-435-2592(内線2812)

MAIL lucks@adm.konan-u.ac.jp